

常任委員会は、その部門に属する事務に関して調査を行う権限を持っています。
 所管事務調査は、市から提案された予算案や条例案などの議案を審査するのとは違い、常任委員会
 が自主的にテーマを設定し、調査を行うものです。
 今回、この調査報告がまとまりましたのでお知らせします。

総務委員会

市職員の業務におけるICTの活用について

認
識

これまで、沼津市役所では、庁内用メールシステムの導入や職員用端末機の増設などにより業務の効率化が図られてきた。今後の検討事項としては、ペーパーレス会議及びWeb会議の環境整備、AIやRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）などの活用が挙げられる。



▲姫路市ではチャットボットのデモンストレーション画面などを見学

調
査

兵庫県姫路市ではAIの活用について、市民が日時を問わず問い合わせができるチャットボット（対話型問合せ機能）の導入事例などからその有効性を学んだ。奈良市ではRPAの活用について、業務の自動化により作業時間を大幅に削減できる可能性を学んだ。

ま
と
め

人口減少、少子高齢化が進展する中、安定的な行政運営を確保するためにはICTの活用が必要不可欠である。また、昨今、新型コロナウイルス感染症対策として多くの企業等がテレワークの取組を始めたほか、感染者との接触履歴を通知するスマートフォンアプリの導入が検討されるなど、ICTは生産性の向上や労働環境の改善のみならず感染症対策においても有効性が注目されていることから、さらに深い政策提言を検討するため継続調査とし、引き続き研究を行う。

文教産業委員会

海を活用した交流人口の拡大について



▲知多市では新舞子マリナーパークを活用した様々なイベントの事例を視察

認
識

人口減少社会の現在、本市の発展のために交流人口の拡大が重要である。観光交流客数は増加傾向にあり、沼津港には年間150万人以上が訪れる。本市は、駿河湾・富士山・愛鷹山・リアス式海岸等の自然資源のほか、湾・沖合・棧橋といった地域資源も多く有している。

調
査

勉強会と管内視察により、観光交流客数の現状と課題のほか、交流人口拡大に向けた取組、沼津港の浮棧橋の整備計画や活用方法、大瀬・戸田の浮棧橋の利用状況と課題等を調査した。また、愛知県知多市の「新舞子マリナーパーク」や愛媛県今治市の「みなと再生事業」を視察調査し、現状の把握並びにさらなる推進の可能性を検証した。

提
言

- ・ 景観、周遊、祭り、学び、体験、スポーツといった様々な利用方法を組み合わせたイベント等の開催に取り組むこと。
- ・ 海水浴場や沼津港をストレスなく利用できる駐車対策を検討すること。
- ・ 沼津港の浮棧橋の積極的な活用と整備を促進し、大瀬・戸田の浮棧橋の新たな利用・管理方法の検討と必要な法整備や情報発信を行うこと。
- ・ Sea級グルメ全国大会の開催誘致に向けた機運を醸成すること。



▲今治市ではみなと再生事業や海の駅の管理運営方法などを視察